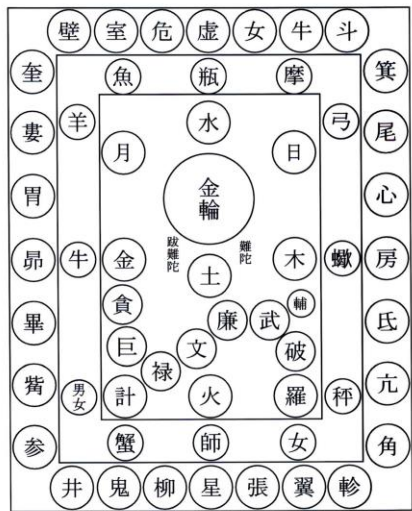


「星に願いを」

星曼荼羅 ほし★まんだら①

Star Mandalas



現存最古の方形星曼荼羅は平安時代後期（12世紀）に制作された久米田寺（大阪府岸和田市）の所蔵品です。その構成要素と配置は上図のとおりです。この構成要素と配置の基本は、後世に制作された方形星曼荼羅にも踏襲されています。



星曼荼羅 方形式 江戸時代 木版彩色 (個人蔵)

● 星曼荼羅の構成要素と配置

星曼荼羅は平安時代の中頃に創案された仏教天文モデルです。密教が重視する「北斗法」という儀礼で用いられます。「北斗法」とは、星曼荼羅の中心尊格である「一字金輪仏頂尊」「いちじきんりんぶつちょうそん」を本尊として「北斗七星」を供養し、延命や除災を祈願する儀礼です。現在も節分に際して密教寺院で懸用されます。

★ 星曼荼羅の構成要素と配置
星曼荼羅は円形式と方形式に二大別されます。ここでは江戸時代に制作された方形式を紹介しましょう。
方形式は一般に、三重院つまり三重の区画から成り立っています。内側から外側へ、内院、第二院、第三院とし、上を北に、画面の右を東に配当しています。



夜空の星々は北天の中心である天の北極の周囲を、一日に一回、反時計回りに回転するように観測されます。

一字金輪仏頂尊は構図全体の中心に位置することから、宇宙の中心を象徴していることが分かります。そのため、密教宇宙観の中心として、北極星すなわち「こぐま座α星」を表現しているとの説があります。

しかし、天の北極の位置に過去1,000年間、明るい星は存在していません。「こぐま座α星」は現在、天の北極の近くに観測されますが、歳差運動（地球の自転軸の傾斜による“すりこぎ”状の運動）により、天の北極の位置は約25,800年周期で移動します。今から約14,000年後は、七夕の織姫星「ベガ」が天の北極の位置に接近し、その頃、北極星と言えば「ベガ」ということになるでしょう。

一字金輪仏頂尊は天の北極そのものの象徴と考えられます。

内院…中央の須弥山「しゅみせん」（仏教徒が信じる世界の中心に聳えるという山）上に一字金輪仏頂尊を配し、その周囲に北斗七星と九曜「くよう」を巡らせませす。
第二院…黄道十二宮（太陽がひと月毎に巡る黄道上の星座に基づく区画）です。
第三院…二十八宿（月が毎日に変える宿に見立てた白道上の二十八の星座）です。

「星に願いを」

星曼荼羅 ほし★まんだら②

Star Mandalas

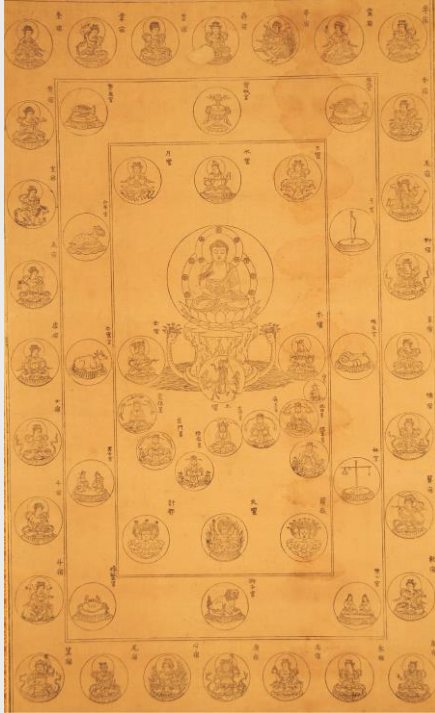
● 星曼荼羅の構成要素と配置の誤り

星曼荼羅の構成要素を円相の内部に表現し、それが何を意味するのか、円相に近接させた文字で示す版画作品です。

江戸時代になると、星々の列次についての知識に混乱が生じ、誤った表現や名称が見られるようになります。

本図の場合も、二十八宿の列次と名称に誤りがあります。

方形星曼荼羅は下方が南に相当され、その七宿の右側三宿は本来、左から右へ「張宿」「翼宿」「軫宿」でなければなりませんが、本図では「亢宿」「氐宿」「角宿」と誤った表記になっています。



星曼荼羅 方形式 江戸時代 木版
(個人蔵)



方形星曼荼羅の内院中央に位置する一字金輪仏頂尊は須弥山上に着座する不動の表現です。長期的に観測すれば移動することが古くから知られていたいわゆる北極星ではなく、移動しない北極そのものの表現でしょう。須弥山は大海から屹立し、二龍王（仏法を守護する蛇族の尊格化）が巻き付いています。北斗七星は中国風に表現され、柄杓形の柄の先端から二番目の武曲星（ミザール）に補星（アルコル）が添えられた表現です。その周囲の九曜は、日月と五惑星の七曜に、日月食の原因となる架空の天体として羅睺と計都を加えたものです。

第二院の黄道十二宮は西洋占星術で重視され、星曼荼羅が西洋占星術の強い影響下に創作されたことを意味しています。密教の宇宙観と星曼荼羅制作の背景になった重要経典に『宿曜経「すくようきょう」』があります。第三院の二十八宿は天空を距星という基準星をもとに二十八区画に不等分分割したもので、インドと中国で発達しました。中国では四分して七宿ずつ方位を守護する霊獣に相当しました。青龍（東）、朱雀（南）、白虎（西）、玄武（北）がそれぞれ七宿に対応します。

★ 二十八宿の星座

角宿：おとめ座の α 、 ζ の二星（距星： α Vir）

亢宿：おとめ座の λ 、 κ 、 ι 、 ψ の四星（距星： κ Vir）

氐宿：てんびん座の α 、 ι 、 γ 、 β の四星（距星： α Lib）

房宿：さそり座の β 、 δ 、 π 、 ρ の四星（距星： π Sco）

心宿：さそり座の σ 、 α 、 τ の三星（距星： α Sco）

尾宿：さそり座の ϵ 、 μ 、 ζ 、 η 、 θ 、 ι 、 κ 、 λ 、 ν の九星（距星： μ Sco）

箕宿：いて座の γ 、 δ 、 ϵ 、 η の四星（距星： γ Sgr）

斗宿：いて座の μ 、 λ 、 ψ 、 σ 、 τ 、 ζ の六星（距星： ψ Sgr）

牛宿：やぎ座の α 、 β 、 π 、 ν 、 ν 、 ν 、 ν 、 ν の六星（距星： β Cap）

女宿：みずがめ座の ϵ 、 μ 、 ν 、 ν 、 ν 、 ν 、 ν 、 ν の四星（距星： ϵ Aqr）

虚宿：みずがめ座の β 星と、こぎま座の α 星と δ 星（距星： β Aqr）

危宿：みずがめ座の α 星と、ペガスス座の θ 、 ϵ の二星（距星： α Aqr）

室宿：ペガスス座の α 、 β の二星（距星： α Peg）

壁宿：ペガスス座の γ 星と、アンドロメダ座の α 星の二星（距星： γ Peg）

奎宿：アンドロメダ座の ζ 、 η 、 β 、 μ 、 ν 、 M 31、32、 π 、 ν 、 ν 、 ν 、 ν の十三星（距星： ζ And）

うお座の ψ 、 ϕ 、 u 、 τ など十六星（距星： τ And）

婁宿：おひつじ座の α 、 β 、 γ の三星（距星： β Art）

胃宿：おひつじ座付近の 35、39、41 の三星（距星： β Art）

昂宿：おうし座の η 星を中心とするブレアデス星団（距星： η Tau）

畢宿：おうし座の ϵ 、 δ 、 γ 、 λ 、 θ 、 α など八星（距星： ϵ Tau）

觜宿：オリオン座の λ 、 ψ 、 ψ の三星（距星： ψ Or）

参宿：オリオン座の δ 、 ϵ 、 ζ 、 α 、 γ 、 β 、 κ の七星（距星： δ Or）

井宿：ふたご座の μ 、 ν 、 γ 、 ξ 、 ϵ 、 ζ 、 λ の八星（距星： μ Gem）

鬼宿：かに座の η 、 θ 、 δ 、 γ の四星（距星： θ Cnc）

柳宿：うみへび座の θ 、 ω 、 ζ 、 ϵ 、 δ 、 α 、 η 、 ρ の八星（距星： δ Hya）

星宿：うみへび座の ι 、 τ 、 τ 、 α 、27、26 を含む七星（距星： α Hya）

張宿：うみへび座の κ 、 u 、 μ 、 ψ の四星（距星： u Hya）

翼宿：こップ座の θ 、 ϵ 、 δ 、 γ 、 α 、 λ 、 ζ 、 β の八星と、ろくぶんぎ座 41 星と、うみへび座の ν 、 χ など二十二星（距星： α Cra）

軫宿：からす座の γ 、 ϵ 、 β 、 δ の四星（距星： γ Crv）